

釧路町立富原中学校

指定年度：R1～
児童数：281名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① コミュニケーション

教育活動を組織的に行うため、校内において円滑なコミュニケーションを図ることが大切だと考え、紙ベースの資料を回覧することに加え、今年度から情報共有アプリを活用して、次のような取組を行った。

ア 情報の共有化・迅速化

《情報共有アプリへの情報周知を契機とした対話の促進（抜粋）》

- 情報共有アプリに教頭から町のICT整備説明会の概要について周知した。

※取り急ぎ、現段階の全体で共有する情報を提供します。
(当日配付資料は回覧します。)

- 1 校内ネットワークの整備
 - ・普通教室、特別教室でタブレット端末を使用できるようアクセスポイントを設置する。 — 以下略 —



- 本周知を契機に、職員室内でICT活用の話をしてきたことから、同じ説明会に参加した担当教諭へタブレットや保管庫等の写真を掲載し、情報を補完するよう促した。
- 担当者以外の教職員も、今後のICTを活用した学習内容の在り方や保管のルールづくりの必要性等について話題が発展した。

イ 職員間の主体的な協議の場の設

《情報共有アプリ内に「オンライン授業」をテーマに協議できる場を設定》

- 新型コロナウイルス感染症対策のための臨時休業中に有志による「オンライン授業」をテーマとしたチームをつくり、協議を実施した。(A、Bは協議内容の一部)
 - A：保護者向けICT環境のアンケートでは、かなりの家庭で光回線が整備されている。オンライン配信と登校を組み合わせると授業を進めることが可能だと思われる。
 - B：オンライン授業形態については録画したものを配信という形で生徒に提供できそう。家庭にPCが1台しかない場合は兄弟で視聴時間をどうするかも考えなければならない。
- 情報共有アプリの活用により、各自の都合のよい時間で協議に参加できたり、若手教員も率先して発言したりする様子が見られた。

② 協働意識の高揚

学校改善の迅速化を図るとともに、教職員の参画意識の向上を高めることが大切だと考え、業務改善のアイデアを募る流れを構築した。集まったアイデアは、運営委員会等において実効性や波及性を検討し、改善できるものは速やかに改善を図った。

- ・運営委員会、職員会議のペーパーレス化
- ・連絡網の廃止（メール配信）
- ・HPの改善
- ・学校評価のWeb回答の試行実施
- ・家庭学習の確認方法の改善

【R1、R2の業務改善】

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

□情報共有アプリの活用により、教職員間の情報共有が迅速かつ確実に行われるとともに、意見交換の活性化につながるなど、コミュニケーションが高まっている。

	第1回	第2回
PDCAサイクルを意識した取組とコミュニケーションに努めている	100%	96%
学校組織人としての自覚をもち、協働体制を心掛けている	100%	100%

【教職員評価の肯定的回答】

□業務改善のアイデアを募ることにより、学校改善への参画意識が高まり、到達目標を達成することにつながるなど、協働意識の高揚が図られている。

■学校の育てたい資質・能力を踏まえた教育活動を推進し、教職員の一層の協働意識を醸成するため、各種評価を踏まえ、教職員が主体的に学校改善に携わることができるような取組を推進する必要がある。